

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和中学校】

⑥ 次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」「学びに向かう力等」において、「各教科の授業の内容はよく分かる」の質問項目において、肯定的回答の平均は市の平均を下回った。一方で、「各教科の勉強は好きか」の質問項目において、肯定的回答の平均は市の平均を上回った。生徒の、学びに向かう力を生かしながら、興味・関心が高まるような学習アプリ等を活用し、基礎・基本の定着や、個に応じた学習を行えるようにしていく。
思考・判断・表現	次年度も各教科の授業において、生徒が発表する場面をより多く設定していく。生徒が主体的に表現等を行えるように、ICT機器の活用も積極的に行う。同一集団の経年比較において、市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」「ICTを活用した学び」の質問項目において、肯定的回答が前年度よりも上回った。教員間においてもICT機器の活用方法や実践事例の共有を行う時間を確保していき、授業の改善に繋げていきたい。

① 今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> R6市学習状況調査結果より、基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について、つまづきが見られる生徒が一定数見られる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習する時間や習得状況を把握する機会を十分に確保できていない。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。【単元のまとまりごと】に実施 ⇒ スクールタッシュボードの「授業アンケート」を単元ごとにとり、生徒の習得状況を把握し、指導方法の改善に繋げる。【単元ごと】に実施
思考・判断・表現	<学習上の課題> 収集した情報や習得した知識から、課題を解決するために必要なものを選択し、まとめる力に課題が見られる。 <指導上の課題> 各教科の授業において、思考の共有化を図るために効果的なICTの活用割合が、教科・学年間で差がある。	⇒ 各教科の授業において、ICTを活用した課題解決型の授業を設定する。【単元のまとまりごと】 ⇒ ICTを活用した授業実践を教員間で見学し合い、授業力の向上につなげる。【学期ごと】

⑤ 評価(※) 調査結果 学力向上策の実施状況	
知識・技能	B 「ドリルパーク」、「Kahoot!」など、生徒が興味・関心を持ちやすい学習アプリを校内研修等で研究し、各教科の授業で実践することができた。そのことで、基礎的・基本的な内容の定着に効率よく繋げることができている。ただし、スクールタッシュボードの「授業アンケート」の活用状況については、実施率の向上を達成できなかった。生徒の学習状況をリアルタイムで把握し、その生徒に合った学習支援に繋げるため、引き続き、校内研修等で教員の理解を深めていく。
思考・判断・表現	B 各教科の授業において、単元ごとに生徒が発表する場面をおおむね設定することができた。また、生徒がICTを活用することで、自分の考えを表現することが苦手な生徒も主体的に発表を行うことができるようになってきた。市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」「ICTを活用した学び」の質問項目において、肯定的回答が市の平均を上回った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において課題がみられた。解答類型を見てみると、文脈に即して漢字を正しく使う力が不十分であると考えられる。数学では、相対度数の意味を理解しているかどうかを問う問題に課題が見られた。ICTの活用頻度が高まっている反面、文脈に即した正しい漢字を適切に使える力に課題が見られる。また、R7全国学力・学習状況調査の生徒質問「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらい時間、読書を読みますか」に対する肯定的な意見は全国、県を上回ったが、読書量が少ないと回答した生徒の割合も高かった。ICTを効果的に活用し、善手意識を持たせないように工夫するとともに、図書館の利用者数を向上させるなどの取り組みを通して読書量を増やし、漢字を正しく使える力を向上させた。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」では、目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力に課題が見られた。理科では、身の回りの事象から生じた疑問や、見いだした問題を解決するための課題を設定できるかについて課題が見られた。R7全国学力・学習状況調査の生徒質問「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」に対する肯定的な回答の割合は高かったが、「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫している」に対する肯定的な回答の割合は県の平均を下回った。自分の考えをまとめ、発表する際に、伝えたい内容を明確にさせる手だてを講じるよう、指導の改善を図っていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	同一集団での経年比較において、理科については市の平均正答率を上回った。また、昨年度との比較において、数学、社会、理科は、平均正答率を上回った。ただし、国語においては、昨年度よりも平均正答率が下回った。市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」「学習した内容について見直し、次の学習につなげることができているか」の質問項目において、肯定的回答が市の平均を上回った。その一方で、「これまでの授業でタブレットをどの程度使ったか」については、使用頻度が市の平均を下回っている。ICTを効果的に活用し、既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく。
思考・判断・表現	同一集団での経年比較において、理科の思考・判断・表現について市の平均正答率を上回った。また、昨年度との比較において、国語は、平均正答率を上回った。ただし、数学、社会、理科においては、昨年度よりも平均正答率が下回った。市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」の質問項目において、肯定的回答が市の平均を下回った。その一方で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しているか」については、肯定的回答が市の平均を上回っている。各教科の授業において、発表する場面をより多く設定したり、異なる考えをもった人と協議して解決策を見いだす活動等に取り組ませたりすることで、思考・判断・表現の力を高めていきたい。

③ 中間期報告		
	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組ませることについては、教科ごとに学習アプリを研究し、ねらいに応じた取り組みをさせることができている。ただし、スクールタッシュボードの「授業アンケート」を活用し、授業改善に繋げる取り組みについては課題がある。校内研修で活用の仕方を研究していく。	変更なし
思考・判断・表現	B 各教科でICTを効果的に活用し、課題設定、根拠に基づいた意見の構築・発表する場面を設定する取り組みを行うことができている。今後は、伝えたい内容を明確にさせる手だてについても丁寧に指導ができるよう、教員間の授業参観等を中心に取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)